都市社会学分野
山本薫子研究室

9号館 1F 154号室
kahoruko(at)tmu.ac.jp
(at) を@に替えてください

専門分野：

都市社会学、都市インナーエリア、地域社会学、コミュニティ研究、移民研究、エスニック・コミュニティ、マイノリティ研究、社会調査（質問紙調査、インタビュー、フィールドワーク等）

都市社会学の問いとは

- 現代の都市の社会の変化の実態や課題、その背景は何か
- 都市の社会の変化は人々の生活にどのようにかかわるのか
- 私たちは都市の社会にどのように関与することができるか（実践、提案）

研究手法

- 社会調査：　インタビューなどの質的調査、アンケートなどの量的調査（統計的手法）、文献調査など

山本研究室　過去の修士論文（2010年度～）

- 「香川県直島における新規居住者の移住プロセスと社会的ネットワーク」
- 「さいたま市岩槻区におけるまちづくり活動の展開過程に関する研究 – 観光まちづくりに着目して–」
- 「放置型産業遺産の活用に向けた地域社会の取組過程 – 北海道・旧雄別炭礦を事例として」
- 「米軍ハウスをめぐる社会環境の変遷と地域における役割の変化 – 福生市・瑞穂町を中心に」
- 「都市部住宅地域における「たまり場」の分析 – 世田谷区・杉並区を中心として」
- 「民間団体によるホームレス及び生活困窮者への支援活動と行政との協働に関する研究」
- 「地域子育て支援拠点事業の利用・運営実態に関する研究 – 熊本県上天草市を事例として」
- 「都心部のエリアマネジメント活動におけるイベントスペースの活用に関する研究―大丸有地区・新虎通り・新宿モア四番街を対象として」
- 「中国の文化産業における人材育成に関する研究―上海市の大学を中心に―」
- 「出身地の地域復興に公共的立場から携わる被災者の意識形成とその実践に関する研究－東日本大震災を事例に－」
- 「中国人集住地域における住民交流活動に関する研究－埼玉県芝園団地を事例として－」

2023年度の研究室のメンバー

- 博士前期課程 5名（2年生3人、1年生2人）
- 学部4年生 6人（休学中を含む）

教員の主な研究内容

1）大都市都心部（インナーエリア）の社会変化

（横浜・寿町、カナダ・バンクーバーで長期にわたりフィールドワークを実施）
・高齢化、障がい者の増加にともなう福祉的施策・支援の対象の増加
・外国人・移民の増加と定着（グローバル化）
・都心部再開発にともなう地価上昇、ジェントリフィケーション
・貧困問題、ホームレス問題、COVID19感染拡大の社会的影響
→大都市都心部で暮らす人々の生活や日々の営み、人々の間の関係にどのような影響を及ぼすか？

2） 社会的マイノリティと都市社会

・外国人・移民・難民
・ジェンダー、セクシュアリティ

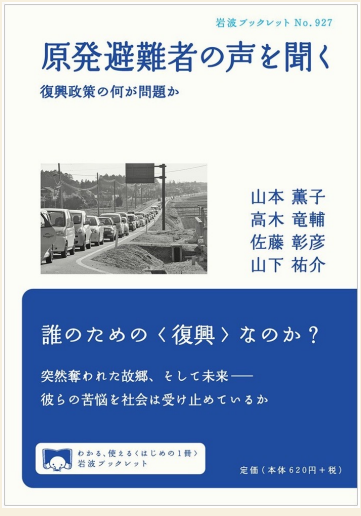
3）原発避難者をめぐる社会変化と課題

・2011年の福島原発事故にともなう長期避難の問題
・地域再建・生活再建と課題、「帰還」政策の避難元地域・避難者への影響と課題
・帰還政策の結果と避難元コミュニティへの影響

教員の主な研究成果

- 山本薫子「貧困をめぐる社会運動」長谷川公一編著『社会運動の現在 ： 市民社会の声』有斐閣、2020年.
- 長谷川公一・山本薫子編『原発震災と避難』有斐閣、2017年.
- 山本薫子他『原発避難者の声を聞く――復興政策の何が問題か――』岩波書店、2014年.
- 山本薫子『横浜・寿町と外国人 – グローバル化する都市下層地域』福村出版、2008年.

その他の業績等は以下をご覧ください。https://researchmap.jp/kahorukoyamamoto



都市で起きている「人々が関わる事象」の大半が都市社会学の研究対象です。**ぜひご自分の関心に基づいてテーマを選んでください。**